実験発達心理学ワークショップ 2013 (EDPWS-S2013)

企　　画・
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：　友永雅己　　京都大学霊長類研究所
橋彌和秀　　九州大学大学院人間環境学研究院
杉村伸一郎　　広島大学大学院教育学研究科
針生悦子　　東京大学大学院教育学研究科
金沢　創　　日本女子大学人間社会学部
板倉昭二　　京都大学大学院文学研究科

[企画主旨]

これまで、「実験発達心理学ワークショップ(EDPWS)」と名付けたラウンドテーブルを、2010 年以来 3 回にわたって企画してきた。知覚・認知・言語・コミュニケーション・文化比較・種間比較等々、自然科学的（実験）研究手法を用いて発達研究を遂行している研究者相互の議論と交流の場となることを目的としている。

発達心理学への社会的要請の拡大に伴い、研究対象への視点や研究手法が多様化するのは歓迎すべきことである。しかし一方で、研究をおこない、その成果を他者と共有し社会に還元する大前提として、研究者自身の価値観や思い込みの要因を相対化しつつ、対象とする現象そのものを実証的に把握する必要性は増している。

そのような中で自然科学的な実験手法は、(「正しく」使いさえすれば）個体や社会を取り巻く様々な現象についての新たな視点を提供しうる有効で強力なツールのひとつである。しかし現状を考えれば、国内の発達心理学領域において、この種のアプローチが必ずしも十全に機能しているとはいえない。本学会の中でも、乳幼児を対象とした実験研究に関する評価やその基本概念、実施にあたっての具体的なノウハウは、実のところ必ずしも研究者・実践者間で共有されていないように思える。発達心理学領域における本邦の国際的な発信力が低いことも、これに起因する側面があるのかも知れない。

本ランドテーブルでは、「自然科学的実験手法」と他の研究手法とを表だって比較したり、明示的に語ることはしない。多様なアプローチからこの手法を選択し、現在進行形で取り組んでいる研究者の発表を通じて、その姿を示すことができればと考えている。

第 4 回の今回も、企画者・ファシリテーターによる主旨説明の後は、あらかじめ参加を表明されたフロアの参加者(複数)による口頭発表形式での研究紹介を受けて、その内容に即して参加者全体での質疑応答・ディスカッションをおこないたい。

観察と理論的背景とを踏まえた実験研究から生まれてくる知見の「面白さ」を、参加者の方々と共有できれば幸いである。

なお、過去 3 回のワークショップ要旨集は下記の HP に掲載している。また今回の要旨集についても本 HP に掲載予定である。

http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/~devpsy1/ws.htm